

会 議 録

| 発 言 者 | 会 議 の て ん 末 ・ 概 要 |
|----------|---|
| 司会（小林課長） | <p>1. 開会</p> <p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから「第4回久喜市ごみ処理検討委員会」を開催したいと存じます。</p> <p>久喜市ごみ処理検討委員会条例第6条第2項の規定によりまして、委員の過半数が出席しなければ開くことができない旨の規定がございます。本日は、20名の委員のうち、現在のところ16名の方にご出席いただいております。過半数を超えておりますので、本日の委員会を開催したいと存じます。</p> <p>なお、欠席の皆様には所用により欠席の旨のご連絡がありましたことを、ご報告させていただきます。</p> <p>傍聴者の方は、現在3名でございます。</p> <p>それでは、お手元の次第に基づきまして、会議を進めさせていただきたいと思っております。委員会の開催にあたりまして、佐藤会長からごあいさつをお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。</p> |
| 佐藤会長 | <p>2. あいさつ</p> <p>皆様、こんにちは。</p> <p>年度末忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。今日は、議題がたくさんなさそうなので、なるべく速やかに進めていきたいと思っております。ご協力、よろしく願いいたします。</p> |
| 司会（小林課長） | <p>ありがとうございます。それでは、会議に入ります前に、本日の資料を確認させていただきたいと存じます。</p> <p>資料につきましては、本日、机の上に配布させていただきました。資料内容の調整に時間を要したため、事前にお送りできませんでしたことをおわび申し上げます。</p> <p>（資料確認）</p> |
| 司会（小林課長） | <p>それでは、早速、3の検討内容に進みたいと存じます。</p> <p>まず、前回の委員会でいただきましたご意見の内容の修正と、具体的な数値目標の設定を中心に意見交換をお願いしたいと存じます。会議の進行につきましては、委員会の会議は会長が議長となっておりますので、佐藤会長に議長をお願いいたしまして、進めていただきたいと思います。会長、よろしく願いいたします。</p> |

| | |
|----------------|---|
| 佐藤会長 | <p>3. 検討内容 (1) 基本方針について</p> <p>それでは、早速、3番目の検討内容ということで、まずは(1)基本方針について、事務局からご説明お願いいたします。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>環境課の野川と申します。私のほうから説明をさせていただきます。着座で説明をさせていただきます。</p> <p>本日は、前回からの継続でございます「(1)基本方針について」と、「(2)数値目標の設定について」の2点について、協議いただく予定とさせていただきます。</p> <p>まず、(1)基本方針でございます。前回の確認をさせていただきますと、前回の委員会の中で、最終処分場についての記載がないと将来的に議論の対象にもならないのではないかと、ということから、最終処分場に関する文言を入れたほうが良いというご意見がございまして、再度、文章を修正し提示させていただくことになったところでございます。</p> <p>資料1をご覧くださいと思います。基本理念を実現するためということで、3つの基本方針がございまして、その中の基本方針3「計画的な施設整備の推進」の中の、下の段の説明文(赤字の部分)を「最終処分のあり方を含め、環境負荷の抑制や資源の循環を考慮した施設の整備・運用を推進します」と修正させていただいたところでございます。</p> <p>最終処分につきましては、最終処分場を自区内に設置するのか、また、それが困難な場合、引受先をどのように考えるのか、こういったことを検討しなければならず、課題がたくさんございます。</p> <p>しかしながら、このような点につきましては、すぐ結論が出せるものではございませんが、前回の委員会で委員の皆様からご指摘いただいたとおり、将来にわたって、引き続き検討すべきものと考えられますことから、このような「最終処分のあり方を含め」という文字を入れた記載とさせていただいたところでございます。</p> |
| 佐藤会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今、事務局からご説明がありましたけれども、前回お配りした資料の、基本方針3のところの文言を、この赤字のように修正したということでございます。これについて、ご質問、ご意見を頂きたいと思っております。いかがでしょうか。</p> <p>前回の文言と比べますと、前回は、エネルギーの有効利用といった言葉が出てきていましたけれども、その辺、少し幅広くということで、こういう書き方になっているのかなと思います。</p> <p>それから、最終処分場、もちろん処分場をつくる話からいろいろ幅広いわけですが、そういう在り方を検討していくということですが、いかがでしょうか。最終処分場について、ご提案、ご指摘いただいた、小山委員、いかがでしょうか。</p> |
| 小山委員 | <p>これでいいと思います。この前も言いましたけれども、やはり、</p> |

| | |
|----------------|--|
| 佐藤会長 | <p>基本方針に載っていないと議論にもかからないということになります。あと、設備のいいものをつくっていただいて、なるべくごみを出さない、最終処分も少なくなるということで、少なくなったときに、最終処分場も、このくらいなら、こういった所でつくれるのではないかと。要は、自分の地域で出したものは、自分の地域で最終的に処理するという形にしておいたほうがいいのではないかとということで、文面を入れていただいて、ありがたく思います</p> <p>いかがでしょうか。最終処分のところに、重要な言葉を入れておくというのは、すごく大事なことだと思います。</p> <p>よろしければ、このとおりのということで、ご承認いただいたしたいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>(2) 数値目標の設定について</p> |
| 佐藤会長 | <p>続きまして、(2) 数値目標の設定についてということで、これも、最初に事務局からご説明をお願いします。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>それでは、続きまして、(2) の数値目標の設定でございます。</p> <p>(1) と同じように、前回の委員会での議論について確認したいと思います。事務局から「国及び県で示されている数値目標を全て満足する数値設定、目標設定」をしたいという、ご提案をさせていただいたところでございます。そして、その案に対して、現実的な数値目標でなければならないだろうというご指摘を頂いたのが、前回の委員会でございます。</p> <p>まず、資料2をご覧いただきたいと思います。この表は、前回、お示しさせていただきましたが、国や県の目標項目等を記載したものととなります。あらためて、表の見方について、若干、説明させていただきます。</p> <p>この表の真ん中よりも少し左側に縦に太い線が引かれておりますが、この線の左側が、国や県の目標項目となります。そして、この太線の右側が、それを久喜市に置き換えた場合の実績や目標、予測などが記載されているところでございます。一番上の①基本的な方針の一番上に「ごみ総排出量」というところがございますが、こちらをご覧いただきたいと思います。</p> <p>この項目につきましては、久喜市における平成24年度の実績値が、48,781 t でございました。国の方針では、この項目について、平成32年度までに平成24年度を基準とした比率で、12%削減するよにということですので、平成24年度の実績値であります48,781 t から12%を差し引いたものが、平成32年度の目標値となります。これを計算いたしますと、ここに記載したとおりでございますが、ごみ総排出量として42,927 t を下回るようにするということが、この国の目標に基づいた久喜市の目標となるわけでございます。</p> <p>このように、基準年度の実績値を受けて、何パーセント削減するという目標設定の項目もあれば、その一つ下の「1人1日当たりの</p> |

家庭系ごみ」の項目をご覧いただきたいと思いますが、これは目標内容にもございますが、1日1人当たり500gと、具体的な数値が示されている場合もございます。このように、それぞれの項目に基づいて、何年度比、何パーセントとかいろいろございますが、それを久喜市に置き換えたものが、この縦の太い線の右側となります。

次に、この目標値の行の一つ右側の行をご覧いただきたいと思いますが、こちらは、「予測値」として計算したものが記載されております。この予測値でございますが、まず、資料3をご覧いただきたいと思いますが、

この資料3は、本市における人口の現状と将来の展望をまとめた計画である「久喜市人口ビジョン」という計画に基づいた将来の予測人口でございます。ちなみに、この表に平成27年～44年までございますけれども、この表の中で緑色に塗られた人口は、久喜市人口ビジョンの中に具体的な人口として数値が出てくるところでございますが、この人口ビジョンでは5年ごとの人口のみを掲載している関係から、その間の年、つまり、この表の中で色の塗られていない年の人口につきましては、この5年間の差を5で割って、均等に推移していくということで算出した数字を記載してございます。その下は、それをグラフにしたものでございます。

ここで、また資料2に戻っていただきたいと思いますが、先ほど、目標値の説明までさせていただいたところでございますが、その右の予測値につきましては、この人口ビジョンによる人口推移のデータを基にして、現在の分別やごみ行政施策を継続した場合に、「目標年度である平成32年度にどのようになっているか」ということをシミュレーションした結果となっております。

国の①基本的な方針の「ごみ総排出量」は、目標値が42,927tであるのに対し、予測値が46,989tになるという結果が出てまいります。その横ですが、目標値まで達成しておりませんので、達成の有無には「×」が付けてございまして、そのさらに右側には目標達成までの必要量ということで記載させていただきました。さらに一番右ですが、参考としまして直近年のデータの、平成26年度の実績を記載させていただいたところでございます。

繰り返しますけれども、この「ごみ総排出量」では、目標値の42,927tに対し、現状のまま推移した場合、46,989tとなり、さらに4,062tの削減する施策を実施しなければ、達成が見越せないということとなるものでございます。

このように、前項目について表を作成したところ、現状のまま推移した場合、黄色に塗られてあります5つの項目について、達成が見越せないという状況が分かりました。

そこで、さまざまな削減策に取り組むべく、資料4をご覧いただきたいと思いますが、こちらは、現在、久喜市で行っていない、先進的な自治体で行われている事例ということで、そういったものを探してきて、取り組み例として掲げさせていただきました。

もちろん、これらの事例項目のうち、どのくらい行うのか、どの程度行うのか、また、住民の皆様の協力の程度がどのくらいなのか、そういったことによって削減効果は変わってまいるところでは

ございますが、このような先進的な事例を参考に、削減に取り組むことで、もう一度試算をし直しますと、資料2をご覧いただきたいと思いますが、先ほど、達成の見越しのたたない予定でありました国の①の基本的な方針の、①の「ごみ総排出量」と、②の国の循環型社会基本計画の「1人1日当たり家庭から排出されるごみ量」と、③の埼玉県の「事業系ごみ排出量」については、何とか達成できる見込みということが分かりました。

しかしながら、依然として、②の循環型社会基本計画の「1人1日当たりのごみ排出量」と「事業所から排出されるごみ量」については、達成することができないという見通しがみえてきたところでございます。

そこで、一度あらためて、市町村における目標設定の考え方について、国の環境省の見解等を確認いたしました。

環境省は、市町村が目標設定をする際は、①の国の基本方針、②の循環型社会形成推進基本計画、③の都道府県の目標等を踏まえて行うようにするとなっており、これは「①～③の全てを達成しろ」というものではなく、そのいずれかを達成すればよく、さらには、計画策定時の段階で、相当程度の発生抑制が進んでおり、それ以上の削減が困難であると認め、考えられる場合は、目標値を現状維持としても構わないという考え方でございました。

久喜市の場合は、国の目標の一つである①の「基本的方針」は全て達成できるにもかかわらず、同じく国の目標である②の「基本計画」は、達成まで程遠いという予測が出ましたが、これは、①と②の基準年度としまして、①の基準年度が平成24年度であるのに対して、②は基準年度が平成12年度であるということが、その差が大きな要因であろうと考えられます。

具体的に見てみたいと思いますが、①基本方針の「1人1日当たりの家庭系ごみ量」と、②基本計画の「1人1日当たり家庭から排出するごみ量」は全く同じ指標でございます。それにもかかわらず、①の場合は、具体的な数値として500gということ国が目標設定しているのに対して、②では平成12年度比で25%削減とあることから、これを久喜市にあてはめると、平成12年度の577gの実績でございましたので、ここから25%削減すると433gという目標設定になるという数字がはじかれるものでございます。

つまり、久喜市の場合、以前からごみ行政に、先進的に取り組んでおきまして、平成12年度におきましても、相当程度の削減が進んでいたために、平成12年度を基準とした目標設定の場合、かなり厳しい数値がはじかれてしまうということなのだろうと考えられるところでございます。

また、通常ごみは、家庭系のごみと事業系のごみに大別されますけれども、この事業系のごみに関する目標設定につきまして、環境省の見解といたしましては、この事業系のごみは企業等の進出などにより大きな影響を受けるものであることから、「大型商業施設の進出により事業系のごみの削減が困難な場合も、現状維持程度で構わない」としているところでございます。

このようなことから、事務局といたしましては、環境省の見解を

踏まえた上で、前回の検討委員会の皆様から「具体的に実現可能な数値であるべき」というご意見が複数出されたことなどから、国の①の「基本的な方針」と③の「埼玉県の計画」、この2つの目標水準を満たす目標設定をすることとして、資料2の裏面をご覧くださいと思いますけれども、裏面のような数値設定をしたいと考えてございます。

表の2に、前回お示しさせていただいた、ごみ処理基本計画で設定する目標数値の4つの指標が掲示されてございまして、それぞれの指標の直近年の実績値として、平成26年度の実績値を記載してございます。その横に、国や県の目標年度である平成32年度における目標、さらにその横に、久喜市ごみ処理基本計画の途中の見直し年度でございます平成34年度、平成39年度、そして、計画の最終年度でございます平成44年度の目標数値を記載したところでございます。

平成32年以降の数値につきましては、先ほど、資料2の表の中の「予測値」のときにも説明しましたが、平成32年度時点で実施している施策をそのまま継続したと想定し、さらに人口の変動等を考慮し、統計的な手法により算出した数値を記載いたしました。なお、4つの指標の上の2つにつきましては、「1人1日当たり」の数値でございますことから、この表の下に「参考」として、その2つの指標の総量を記載させていただきました。

なお、このような指標のうち、焼却処理量や最終処分の量などは、ごみ処理施設の処理方式などによって大きく変わってまいります。前回もお話しいたしましたが、この基本計画は、最終目標年度を平成44年度でございまして、平成34年度と39年度には見直しを行う予定となっております。ただ、平成35年度に新たなごみ処理施設の稼働を予定していることを考えますと、平成34年度の見直しの際には、具体的な処理施設の方式等を踏まえ、それにあった数値目標に変更することも考えられるところでございます。

最後に、資料5をご覧くださいと思います。

これは、前回の委員会で、他市の目標設定等と比較できるものを確認したいというご意見をいただいたことを受けまして、作成したところでございます。参考といたしましたのは、人口が15万人～20万人の類似団体、関東です。この類似団体というのは、いわゆる市の産業構造等が類似している団体のことをいうものでございますが、プラスごみ行政に関して先進地と言われている東京の小金井市を対象としたものでございます。

久喜市の4つの指標のうち、3つの指標については、他市でも採用されていることから、比較表を作成しましたので、まず、図の1をご覧くださいと思います。

こちらは、1人1日当たりの家庭系ごみのものでございます。図の一番上の線を見ていただきたいと思いますが、赤い丸に点線がございまして、これは右に関連がございまして、これは狭山市のものとなっております。この線が、幾つか上げてあるのですけれども、一番左側が赤い丸となっております。

狭山市の例で申し上げますと、平成22年度が計画策定年度と言うことで、22年度の実績値が赤丸で囲まれてございます。これを

| | |
|---------------------------------|---|
| | <p>右側に推移していきますと、白やグレーが目標の数値となつてございます。狭山市の場合は、平成22年度の計画策定時には約700gくらいであった実績値で、途中地点の5年後の平成27年度で、およそ650g、最終年度の33年に約600gにするという計画が立てられているという表になってございます。</p> <p>その意味で、一番左側の赤い点が、それぞれの市の計画初年度で、直近の実績値でございまして、それ以降のグレーの点や、丸、三角等が、それぞれの途中年度や最終年度での目標値となつてございます。青い線で引かせていただいたのが、先ほど資料2の裏面でご覧いただきました、久喜市で立てようとしている目標を書いたものが、この久喜市のパターンとなつてございます。</p> <p>同じような作り方で、裏面には「最終処分量」と「再生利用率（リサイクル率）」について、同じような表が掲げさせていただいたところがございます。こちらを併せてご確認くださいませと、久喜市で設定しようとしている目標が、類似団体と比較して、どのような関係なのかを視覚的に見て取れるということで、資料をご用意させていただいたところがございます。</p> <p>事務局からの説明は、以上でございます。</p> |
| <p>佐藤会長</p> | <p>ありがとうございました。それでは、ただいま、ご説明いただきましたけれども、それでも、なかなか分からない点もあるかと思えます。そういったご質問も含めて、ご意見を頂戴したいと思いません。いかがでしょうか。</p> <p>1つ事務局に確認したいのですが、資料2の中で国の目標の一番上のところで、平成24年のごみ総排出量、48,781tというのは事業系のごみも入った数値なのですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹) 佐藤会長</p> | <p>これは、家庭系、事業系ともに入った数値です。</p> <p>家庭系、事業系ともに入った数値ですね。分かりました。</p> |
| <p>佐々委員</p> | <p>ご発言がないようでございますので、気が付いたところを1つよろしいですか。</p> <p>今の説明の中で、5番の類似自治体との比較ということで数値が分かりやすく出ております。一般、民間では類似業種と比較することで当然なことだと思いますけれども、隠れた部分もあって、これを素直になかなか全部が受け止められない部分があると思えます。例えば、商工業が大変発展しているとか、周りから人がたくさん来るとかということもありますし、さらにその周辺地域といえますか、商工業のほうからも、それも含めてだと思えます。</p> <p>もう1つは、よく緑化で緑の施策というとき、植木や花木の剪定、これも一般的にはごみに入るのでしょうか。そうしますと、緑化を一方で進めて、やはりそのまま放置できませんので、当然それがごみになるところへ数字が上がってきます。私も、ささやかな所に庭木を植えておりますが、ごみが出て結構大変なのです。そんなことがありますして、やはり地域性のことがありますから、自分の地域でどういう状況か、しっかり周辺を見極める必要があるか</p> |

| | |
|----------------|--|
| 佐藤会長 | <p>と、今、聞いていて思いました。 そんなところを一言、挙げさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。今、類似自治体ということなのですが、ひとつ事務局に教えていただきたいのですが、1人当たりの家庭ごみについて、小金井市が非常に出されるということですが、そうすると、その裏の再生利用率とか、そういうところには小金井市が出てこないのですけれども、どうでしょうか。そういうリサイクルに熱心だとごみの量が減るみたいな、そういうことではないのでしょうか。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>これは、その市の基本計画の中に指標があるものだけを抽出してきておりますので、市によってはリサイクル率を指標の中に採用していない所もあったりですとか、最終処分場なども、もっと少なくなるのですけれども、指標に採用していなかったりということで、類似団体の中で、この指標を採用している所だけを抽出したものでございます。</p> |
| 佐藤会長 | <p>分かりました。いかがでしょうか。</p> |
| 車田委員 | <p>資料5の類似自治体との比較の裏のページ、一番最後の再生利用率（リサイクル率）ですね。久喜市の場合、32%くらいで、ずっと横ばいでいきそうだということに対して、一番上の点線の府中市は、一番高いところは50%を超えて、60%近くいくくらいまでありますけれども、再生率で久喜市の倍もいくようなものというのはすごいと思うのですが、この辺の久喜市との違いというのはどこでしょうか。とにかく平成25年以降、ずっと50%以上をキープして、平成34年には60%近くまでいくということですね。これに対して、当久喜市は32%くらいでずっと横ばいでいくということだけど、久喜市が30%を超えていること自体、立派だと思うのですが、府中市がそれをはるかに倍近くだということで、仮に府中市ができるのであれば、久喜市ももっと、50%とはいかなくても40%を超すくらいの努力ができるのではないかなと思うのですが、そこはどうなのですか。</p> |
| 佐藤会長 | <p>ありがとうございました。府中市の平成24年度は実績データもあるのではないかと思います。点線で、予測で55%くらいですね。だけど、平成24年の実績はどうなのか、本当に55%いつているのか、そこら辺が大事なところだと思います。 事務局、いかがでしょうか。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>府中市の実績は押さえていないのですけれども、この表からしますと、少なくとも府中市は、平成20年度については既に40%が実績値でございます。環境省が出している平成25年度版の「日本の廃棄物処理」というものがあるのですけれども、それを見ますと、リサイクル率、府中市は38.8%でございます。 ちなみに、人口10～50万人の都市の中で、府中市は全国6位</p> |

| | |
|----------------|--|
| | <p>という形になっております。このデータを見ますと、若干下がっています。38.8%という実績です。</p> |
| 車田委員 | <p>二十何年ですか。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>25年に出されたものですが、データが25年度の数字です。</p> |
| 車田委員 | <p>25年は、府中市は計画で、既に50%を超えていますよね。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>実績では38.8%ということで。</p> |
| 佐々委員 | <p>これは予測どおりにいかなかったというだけのことでですね。</p> |
| 佐藤会長 | <p>ですから、どうして50%という予測ができたのかというところが大事なところですけども。</p> |
| 車田委員 | <p>久喜市と倍も違ってくるということは、何か仕分けの仕方が、数字の捉え方がもともと違うのかなと。同じようなごみを扱っていて倍も違うのは不思議だなと思うし、府中市ができるのであれば、久喜市は努力すればもっと上げられるのではないかと思います。</p> |
| 佐藤会長 | <p>久喜市も合併前の時、確か40%を超えた時もあったと思います。</p> |
| 車田委員 | <p>私も減量推進委員を長いことやっていて、既に久喜市は35%くらいの記憶があるものですから、どうしてだろうと思っていたのですが、それは合併前ということですね。</p> |
| 佐藤会長 | <p>いかがでしょうか。</p> |
| 坂居委員 | <p>この中で分からないのは私一人かと思うのですが、数字が難しく分からないのです。まず、資料2の項目が、1人1日当たりの家庭系ごみ量ですとか、最終処分量だとか、リサイクル率とあります。それで例えば、この表側の基準年度、平成24年のリサイクル率が31.9%ということは、ごみ総排出量の残りの68.1%が最終処分にいたり、焼却されたりということでございますか。これをどうやって見たらいいのか、ここの相関関係が分からないのです。ただ単純に、こういう項目だけ取り出して、それはこういうことですよと、それを年度ごとに比べていけばいいという見方をすればいいのでしょうか。</p> <p>縦のほうのリサイクル率がこれだけだから、では処分場にいったのがこれだけだから焼却したのがこうだと、今数字が出ていますけれども、これは人口を掛けてやると整合性がとれるということですね。でも、計算するのは大変難しいから、これの目的は年度ごとにこのように減っていくのですよということを見ればいいのか。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| 久喜宮代衛生組合 (鈴木課長補佐) | <p>この表の見方の目的を教えてください。</p> <p>私のほうから、まずこちらのリサイクル率の算出の方法ということでご説明をさせていただきます。</p> <p>こちらのリサイクル率ですけれども、パーセントで表せるとおり、ある数字をある数字で割り算をした答えと単純に考えていただいて間違いのないと思います。その割り算の計算といたしまして、まずリサイクル、再資源化をされた量。例えば、ご自宅から紙を置き場に出します。その紙は問屋さんを通じて、また再生紙になって戻ります。こういったリサイクルをされた量をまず1つ。もう1つの数字といたしましては、皆様方が出されたごみの量です。これは資源、ごみ、全く関係なく、生ごみから先ほどの紙、布までといった一切のごみ。これに加えまして、地域等で子ども会、PTAなどといった集団回収でごみとして出た量ですので、その地域から丸ごと出たごみの量を分母。分子は、その中でリサイクルに回った量、こちらの計算でリサイクル率が計算されることとなります。</p> |
| 坂居委員 | <p>私も、全体のうち、これがリサイクルした量だから、このパーセンテージということは分かるのです。そのほかのところ、例えば1人当たりの家庭の排出量、資源ごみを除くという数字が出ていますね。これには、本当はプラス資源ごみが入っているのですね。今のご説明ですと、リサイクル率を出すための分母の中には入っているということですね。</p> |
| 久喜宮代衛生組合 (鈴木課長補佐) | <p>はい、そのとおりです。</p> |
| 坂居委員 | <p>この表については、この4つの間の相関関係は考えないで、この横の列の毎年毎年こうやって減らしていくということだけ考えればいいのですか。それが知りたかったのです。</p> |
| 組合(鈴木) | <p>そうです。おっしゃるとおりです。</p> |
| 坂居委員 | <p>リサイクル率が32.3%だったら、当然100引く32.3が、リサイクルされずに焼却されたり埋立てされたり、そうなるということは分かるのです。たげど、何かこの縦算で相関関係があるのかなと思ったのですけれども、横だけを見ればいいのですね。</p> |
| 久喜宮代衛生組合 (鈴木課長補佐) | <p>そのとおりでございます。横だけを見ていただければよろしいかと思えます。失礼いたしました。</p> |
| 坂居委員 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 車田委員 | <p>今のリサイクル率の中で、生ごみの堆肥化というのはリサイクルには入らないのですか。</p> |
| 事務局 | <p>リサイクル率の中に入っております。</p> |

| | |
|----------------|---|
| (野川副主幹) | |
| 車田委員 | 入っているのですね。理解しました。リサイクルされているということですね。 |
| 事務局 (野川副主幹) | はい。 |
| 小山委員 | 議論がよく分からないのですけれども、要は、資料2の直近26年の実績値に基づいて、新しく平成32年度までの目標値を作るというのが、この裏に載っているわけでしょうか。上から言いますと、415g以下だとか533g以下、1,410t、34.6%、これを32年度までに目標としてやれば、国、県の目標の両方を達成できるという説明なのですか。 |
| 事務局 (野川副主幹) | 国の①の基本的な方針と、③の埼玉県の基本計画、こちらを全てが達成できるという形になります。 |
| 小山委員 | そうすると、32年まで、26年の実績から6年間あるわけですね。細かく言うと、6で割った数字だけどんどん減らしていけば、目標を達成できるということですか。その施策が、分別するとかいろいろ赤で書いてあるのは、こういうことをやれば、現状は目標達成できますという理解でよろしいのでしょうか。 |
| 事務局 (野川副主幹) | そのような形でございます。 |
| 小山委員 | これは私の持論ですけれども、人口の増減だとか、経済の予測だとか、景気が良ければ買い物するし、ごみは出ると考えているのですが、これですと、例えば本当に経済が良くなって、景気が良くなってということは予測の中に加味されていないと。 |
| 事務局 (野川副主幹) | これはあくまで過去の推移をもとに、将来にわたって出るだろうということを回帰予測というのですか、過去から将来に向けた予測をしたものでございますので、その中に、例えば大きな社会環境の変化というのは、特には入っておりません。 |
| 小山委員 | この数字を出すために、計算する中において一定のルールというか、方程式みたいなものがあるのでしょうか。 |
| 事務局 (野川副主幹) | 細かな計算になるのですけれども、回帰予測、数式みたいなものを出しまして、それに基づいてはじいたデータになります。今、委員さんがおっしゃられた、特に大きな社会環境の変化が起きたようなときは、当然ごみの排出量も変わってくることも想定されますので、そういったものは定期的見直しや、必要に応じてその時々見直しをかけていく必要があるのかなと思っております。 |
| 小山委員 | これを見ますと、久喜市はもう人口は全然増える見込みがないと |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>ということですね。それに基づいて作っているわけですね。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>この人口ビジョンは、市で定めたものでございまして、ごみの将来の量は、この人口ビジョンによる人口に基づいて算出したものとなります。</p> |
| <p>小山委員</p> | <p>方程式があるのでしたら、それ以上のことは言えないので、この表2の目標を設定すれば、もう一度確認なのですが、県や国の目標も全てクリアされるということによろしいですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>はい、国の①と県の③のそれぞれの項目を、全て達成できる見通しになるということでございます。</p> |
| <p>坂田委員</p> | <p>簡単なことですが、資料2の裏側の久喜市のごみ処理基本計画における数値目標ですが、これの1人1日当たりの家庭系ごみの排出量と、最終処分量というのは減っているのです。でも、1人1日当たりの焼却処理量とリサイクル率は、39年と44年で上がっているのですけれど、これはどういうことなのでしょう。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>まず、1人1日当たりの家庭系ごみ量の話ですけれども、下の参考をご覧くださいと思います。参考に、この1人当たりのごみをはじくにあたって、家庭系のごみの排出量の総数が出ていますけれども、こちらの総数をご覧くださいと分かるように、総量としてはどんどん減っています。この減り方と、人口も同じように減っておりますので、割り算で出す関係から、1人1日当たりの家庭系ごみの排出量が横ばいという形になります。</p> <p>続きまして、1人1日当たりの焼却処理量でございます。こちらは、なぜ同じような方式なのに、こちらは増えているのかという話ですけれども、この1人1日当たりの焼却処理量は、家庭系ごみ以外に事業系のごみも含んで焼却量を人口で割る関係から、事業系のごみは家庭系のごみのように、人口が減るように減っていかない見通しでございますので、事業系のごみも含めて1人当たりで割り返すと、このように若干増えていくという形でございます。</p> <p>あと、リサイクル率も同じでございます。家庭系のごみだけではなくて事業系のごみも含めて、ごみの組成といたしまして、ごみのいろいろな区分があるのですけれども、その区分ごとで計算をすると、若干ながらこのような数字になるという形でございます。</p> |
| <p>坂居委員</p> | <p>事業系という場合は、カウントは一つの企業は1人と考えるのですか。それとも、企業の規模によって変わるのですか。</p> |
| <p>佐藤会長</p> | <p>人口で割っているのです。</p> |
| <p>坂居委員</p> | <p>では、企業の中に何人いるかということですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>久喜市民の数です。ですので、1企業を1人と数えるとか、従業員を人口で数えるのではなくて、久喜市の人口で割ります。</p> |

| | |
|------------------------|---|
| <p>坂居委員</p> | <p>そしたら、家庭だけでなく事業系のごみもひっくるめて、出たものを久喜市の人口で割るということですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>はい。そうです</p> |
| <p>久保委員</p> | <p>今の説明で、半分は分かったのですけれども、今話題に出ているリサイクル率で、この数字は企業系も含んでいて、実績から今後の推測が上がって行って、横ばいになった理由が今の説明で少し分かったのですけれども、もう1つの別の資料で、取組みに向けての施策例の中で、シュレッダー紙のリサイクルルートを確保というのは、現状の久喜宮代一部事務組合とは違う方向へいくわけですね。</p> <p>現在は、燃やせるごみで全部出しているわけです。リサイクルの資源のほうでは、シュレッダー紙はノーなのですよね。それがここで出れば、一般家庭も含めて事業系のほうのシュレッダー紙は相当数量が多いと思うのです。幾らペーパーレス化になっても、企業秘密保持などで企業のシュレッダー紙は増えることはあっても減ることはないと思います。だから、これが資源のほうに回れば良いです。</p> <p>その次の、再生古紙の資源化について検討ですけれども、これはアルミコーティングパック等を含んでの難再生古紙というようにまとめてあると思うのですけれども、このように資源化できるごみを現在は焼却しているのを資源化するのだから、リサイクルは現状よりも、資料2の2ページのリサイクルでも、資料5の図3はこれをグラフ化したものですが、これが横ばいとか、26年の実績に対して32年までは右肩上がりのカーブで、それからが横ばいなのですが、この辺もう少し今みたいなリサイクルに回せる要素があるのだから、推測ですけれども、もう少し好転するのではないかなと個人的には思うのです。その辺の推測に入れる要因がありましたらお願いいたします。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>資料2の裏面をご覧くださいと思います。平成32年の目標がありまして、それ以降は横ばいになっているという話ですけれども、32年度以降の数値につきましては、32年度の施策がそのまま44年度まで同じ施策が推移した場合ということで試算をかけたものでございます。ですので、委員がおっしゃられたように、34年度以降もさらなる推進をすれば、リサイクル率はなお上がっていくでしょうし、ごみの排出量はなお減少していくと思います。取りあえず、国・県の目標の基準年度が32年度でございますので、まずは32年度までにやることを決めて、それ以降については、その施策を継続して行うという試算での数字になります。</p> <p>32年度のころになりますと、恐らく国や県も次の計画が出てきますので、そのときはその数値を見て、必要に応じて久喜市の目標設定を見直す必要があるのかなと思っています。</p> |
| <p>久保委員</p> | <p>分かりました。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| 佐藤会長 | 他にいかがでしょうか。 |
| 車田委員 | 久喜市には各所に大型販店がありますね。あれらのごみというのは、全部久喜宮代衛生組合に行くのか、それとも自前で処理している部分もあるのですか。ちょっと確かめたかったです。 |
| 久喜宮代衛生組合 (鈴木課長補佐) | <p>ただいまのご質問につきましてお答えさせていただきます。おっしゃるとおり、規模はともかく管内の小売り店舗は多々ございますが、こういった事業所から排出されるごみは、基本的には私どもの管轄清掃センターでごみをお預かりしております。ただ一般的に、既にリサイクルされるルートが確立し、例えば紙類、段ボール類、こういったものにつきましては、私どもの所には来ず、民間ルートで既に資源化をされている例もございます。</p> <p>加えまして、最近ですと、やはりどこの企業でもごみの減量ということで、企業自体、かなり気にされていらっしゃるようです。例えば、品物の仕入れに使う箱も、市場とお店の間を通いの箱に変えることでごみが少なくなります。あと、一部の店舗では、生ごみの処理機を独自に導入いたしまして、そこで処理を行ってごみを減量しています。そういった形で、行政によらず処理方法を模索されている事業所も多々ございます。</p> |
| 瀬田委員 | 今、いろいろごみの焼却とか、数値で出されていますけれど、私も家庭の主婦で、あまり大きな数値とか細かいことは分からないのですけれども、資料4に書いてある今の大型販売店とか、そういう所の取り組みがここに全部記されているので、これをこれから進めていけば焼却するごみが減っていくという、そういう大きい理解でよろしいでしょうか。 |
| 事務局 (野川副主幹) | そのように理解いただければと思います。 |
| 久保委員 | 資料5まで説明が全部終わったという形なので、資料4の施策の質問でもよろしいでしょうか。施策の大きな項目で、「ごみを出さないライフスタイルの普及」とありますけれども、私とすると、「ごみを出さない」というよりも、「ごみを少なくする」という表現のほうがお願いしたいと思います。「ごみを出さない」というのは、出さなければいいというところで、今、久喜市でも問題になっているごみ屋敷の問題です。高齢化だとか単身世帯というのか、要するに社会福祉協議会の話を知ると、ごみ屋敷の問題が大きな課題になっています。そうすると、極端に言えば、ごみを出すなど言うからここにありません。だから、「ごみを出さない」というよりも、「減らす」という表現のほうが、市民には理解できるのではないかと思います。いかがでしょうか。 |
| 事務局 (野川副主幹) | おっしゃるとおりだと思います。「出さない」というのは、「少なくする」という意味で、今後、この辺の施策項目を考えたときに |

| | |
|----------------|---|
| 佐藤会長 | <p>は心掛けたいと思います。</p> <p>これについては、また、あらためて皆さんのご意見を頂く機会があると思います。</p> |
| 田沼委員 | <p>いろいろ説明を頂きましたが、今日の議題は、何を目指しているのかということところです。前回の委員会で数値目標が、本当にこの数値で良いのかどうかということが課題になっておりました。それで、人口とか、あと久喜市と類似した市町というところを提示していただき、そういう中で検討していくというお話で、今日は市のほうからいろいろ資料の提示を頂きました。それで今、話し合いをしているわけですが、でも究極、今日の議題では久喜市としての数値目標は、これがいいのではないかとすることを設定するのかどうか。ただ、お話し合いだけで終わってしまうのかどうかということところを、お話を聞きながら少し感じました。</p> <p>それと私は、今日で4回目ということで、本当に皆様のいろいろな貴重なご意見を聞いて、勉強させていただいているわけですが、今回の今までの話の中で、ごみの総排出量、その中でもリサイクル化できるごみを増やすことがいいのかなという、何か少しそういう感触も持ったのです。先ほど久保委員からも話がありましたように、まだまだリサイクル化できるごみというものはあるのではないのか、いろいろなそういう検討する余地があるのかと。私たち委員としては、そういうことを基本計画にのっとなって目指していくには、ごみの減量化と資源化について、どのような協議をして、取り決めをして決定していくということ、それを私たちが話し合って決めるというか、諮問していくというのか、そういう形でよろしいのでしょうか。その辺が私も、いま一つよく分からないのです。</p> <p>先ほど「ごみを出さないライフスタイル」ということで、こういうのも私たちがこれから話し合いをしていく中で、「ごみを出さない」ではなくて、「ごみを少なくする」という文言にしたほうがいいのか、そういうものはこの会議の中で話し合っていくものなのか、それとも市の担当の方がそれを聞いてやっていくのか、その辺りが、まだ完全に明白になっていないのです。</p> <p>私は、みんなで話し合っ、より良いものを作り上げて、市民の方に基本計画として提示していく会議なのかなと捉えているのですけれども、何かこの辺につきまして、よろしく願いいたします。</p> |
| 事務局 (野川副主幹) | <p>今、委員がおっしゃられたように、基本的に皆さんでお話をしていただきたいと思うのです。お話をするに当たって、取りあえず、案を提示させていただかないと、なかなか話もしにくいのかなとは思っております。そのようなことで、このような形で提示をさせていただいて、例えば、これはこうではないか、ああではないかという意見があれば、それをまた持ち帰って、次回に基本方針、今回お出しさせていただいたように見ていただいて確認していただこうと、このように思っております。</p> <p>今日の目的という、1つ目のお話がございましたけれども、お手元の次第にもございましたとおり、今日は前回「最終処分」の言葉</p> |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>を入れたほうが良いという指摘がありましたので、それを加えた基本方針について確認していただきたいことが1つです。あと同じく、前回数値目標の話になって、実現可能性とかそういったものを探るべきだとか、具体的に人口とかのデータに基づいて数字をはじかないと分からないという意見がございました。それらを全てはじいたデータをお出しした考え方が、先ほどの資料2の裏面でございます。この数字については、あくまで数字の羅列になってしまうのですが、この数字をはじいた考え方で差し支えなければ、ご了解いただければということで、ご説明とご提示をさせていただいたところでございます。</p> |
| <p>井草委員</p> | <p>各委員から、いろいろなご意見を頂いていますが、まず、基本方針1のとおり「ごみの減量化と資源化」ということについては、どなたも異論を唱えることはなく、全員が納得しているところだと思います。しかし、この作られた目標値のほうは、黄色く塗って「×」をしてあるところ、この基本方針に向かって一生懸命努力していますよという姿勢がうかがわれないうことです。例えば、資料2の国の目標、①基本的な方針に対して、国は目標内容で平成24年度比12%減は、これは国がこういうようにしなさいと言っているのですか、それとも久喜市独自の目標なのですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>これは、国がそう言っているのです。</p> |
| <p>井草委員</p> | <p>そうですね。それに対して、この久喜市の目標値というのは基準年度が48,781tに対して、平成32年度の目標が42,927t、これは一応12%減らした数字ですね。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>そうです。</p> |
| <p>井草委員</p> | <p>予測はこれをはるかにオーバーして、46,989tです。基準年度から減る割合は、12%どころか3.4%しか減らないです。そうすると、久喜市として努力しているのかということをおっしゃるを得ないのではないのでしょうか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>この予測値の計算方法でございますが、あくまで、現在と同じ取組みのまま平成32年度を迎えると、人口減少等がありますのでこの予測値になりますよということでございます。今後、全く今の3センターで同じような取組みをした場合は、46,989tまでしかいかないというふうに、ご理解いただきたいと思います。</p> |
| <p>井草委員</p> | <p>ここで議論すべきは、現在のままいくことでなく、新しい焼却炉ができるわけです。そして、ごみの出し方、分別のし方も、多分今よりは、みんなでもっと協力して分別をきちっとしましょうという方向に行くのではないかと思うけれども、そういうことをやって、平成32年度は基準年度よりは、12%、国と同じくらい減らしま</p> |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>すよという数字を出すのがお役所の仕事でないでしょうか。</p> <p>ここで我々が、従来のやり方でやっていくとこれしか減りませんよということを承服する、皆さんいいですねと納得するのではなくて、これについては、12%を達成するために、久喜市としてはこういうことを努力します。行動に移します。その結果、数字として48,781tが、12%減った数字でこういう数字になりますよという数字を提示するのが、市役所のお仕事ではないでしょうか。現在のままいくとうですけれど、皆さん、よろしいですかと。そうすると、現在のままいくという前提条件では、何ら問題が検討されませんよね。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>資料2の表面をご覧くださいと思います。繰り返しになってしまうのですが、現在のままいった場合の予測値があります。それで、このままでは達成が「×」ですので、このままいいわけではないと、今、井草委員のおっしゃったとおりです。</p> <p>そこで、資料4をご覧くださいと思いますが、資料4は、今、久喜市で取り組んでいない施策、先進事例なんかを見ますとこういったものがございます。さらに、こういったものに取り組むことで、先ほど言った「×」をどうにか「○」に変えていこうということです。そのために、他の先進自治体を考えるとこういふ施策が考えられると。今後、今のまま推移すると、先ほどの予測値のとおり「×」ですが、こういふ新たな取組みに、積極的に取り組んでいけば、「×」だったものが「○」が出てきます。そのための数値目標が、先ほどの資料2の裏面になります。</p> <p>ですので、資料4のような具体的な取組みに取り組めば、井草委員が「×」では駄目でないかと言われた、これが「○」になっていくということでございます。そういった意味で、資料2の裏面の数値目標を目指して、資料4のような取組みを今後していきたいという形となってございます。</p> |
| <p>井草委員</p> | <p>それはよく分かりました。もう1つよろしいですか。データの作り方ですが、私たち素人なので、今日初めてこのデータをぼんと置かれても、よく分からない。特にごみの総排出量は何万何千トンと、トン単位で出てきます。1人当たりについてグラムで出てくる。そうすると、例えば1人1日当たりの家庭ごみの量も総量では何トンだと。全体が、例えば基準年度で48,781tのうち家庭系ごみは何トンですよと、そういうことも表示してもらわないと、いきなりグラムになると、全然比較対照の仕方が分かりません。</p> <p>その辺のところをやってもらわないと、人口の推移によってグラムになっている。そうすると、人口減少を予測してグラムで言うと全然ぴんとこないのです。総量のごみの量が全体どれだけであって、その内、一般家庭から出される量が全体で何トンあると。それを人口で割れば何グラムになる。それだったら分かるけれども、トンとグラムを比較してもぴんとこないです。そういうことで、次回、その辺をご検討いただければと思います。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>資料2の表面の項目ですけれども、これは国の計画、方針に掲げ</p> |

| | |
|---------|--|
| (野川副主幹) | <p>られている項目をそのまま持ってこざるを得ないものですから、このような形にさせていただきました。今、委員さんおっしゃるとおり、総量だったり1人当たりの単位だったり、分かりにくいところがございますので、今後、資料を作る際は、その辺を十分に心掛けたいと思います。</p> |
| 佐藤会長 | <p>他にいかがでしょうか。</p> |
| 佐々委員 | <p>今、何名かの皆さんからいろいろなご意見が出ましたけれど、一番ごみの出ない究極は、ライフスタイル、生活様式が変われば出ないのですけれども、今はどうしても利便性が優先で、とにかくお弁当を買ってもごみ、おにぎり買ってごみですから。これは、当分続きそうです。では、どうするかというと、こちらに出ているように、こういう対策をとれば減るだろうということなのです。</p> <p>しかし、これは国・県とかで、もちろんこれは、あくまで参考にはなるとは思いますが、5年とか10年とかという物差しでなくて、当然のことですけれども、中間的に久喜市で独自で、不自然、不都合なところがあったら、2年に一遍くらいは微調整というか軌道修正していったほうがいいのではないのでしょうか。5年待っていて「こうだ」と言うと、なかなか期間が長過ぎます。もちろん、あくまで計画は5年、10年でも結構だと思いますけれども、そんなに急激に私たちの生活方法を変えられないです。ではどうしようかという、これが一番の課題だと思いますので、私たちも率先してごみの出ないような、そういったことに気配りをしていかなければいけないかなと思っています。そんなことで、中間的に絶えず見直し、検討、改善というようなものを進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p> |
| 久保委員 | <p>先ほど井草委員のご質問にあったように、こういう表などの、例えば予測値の場合など、ご説明を聞いて分かるわけです。そうすると、こここのところに数値を出した条件、例えば算出の特記事項で、現状推移での数字だとか、あと先ほどの中で、総排出量などは事業の進出で大きく変わるわけです。そうすると、環境省に見解を聞いたところ、「要因があるときは現状のままでもよい」といいます。要するに久喜市においても工業団地ができたり、財政上、企業を呼ぶわけです。そうすると、先ほどの質問みたいに、人口が減っていても企業が増えれば財政的にはいいことになって、ごみが増えて、1人当たりのごみが増えるという疑問が出てきたりするわけです。</p> <p>ですから、説明を聞いて分かるのも一番いいのですけれども、聞き逃すこともあるわけですので、こういう予測値などの場合は、その条件を入れておけば、数とか見たときに分かる。我々も年齢的に、ぱっと見て反応がすごく鈍くなっているのです、説明を聞いても理解するまで時間がかかったりします。大体、資料作成の時の数値など、特に予測の場合「こういう条件で算出しましたよ」という算出条件が入るのではないのかなと思うのです。</p> <p>私も現役を離れてだいぶたっているのです、現状は分かりませんけ</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>佐藤会長</p> | <p>れども、その条件というのは絶対必要だから、それを明記したほうが、皆さん理解しやすいのではないかなと思います。 要望です。よろしくお願いします。</p> <p>その他には、いかがでしょうか。 今日は、この目標値を設定する、もちろん数値なども大事ですけど、考え方をご理解いただくといいですか。それで、結局のところ、どういう方式で本当に処理をしていくか、またどうシステムにするのかで、当然数字が変わってくるわけですね。しかし、それを検討する前に、この計画書を作らなければいけないところが、矛盾が出てくる原因なのかなと思います。 ですから、それにしても、ある手順でこの処理計画書を作らなければいけないということで、無理のない、今と同じ状態だったら、まずは現状維持でいられるのかなというところです。しかし、新しい計画を作るわけですから、少しでも前向きの数字にしていきたいというところで、何とか審議した結果がこの資料2ではないかなと思います。ですから、ここで確かに全てが「○」になるようにすることが大事かもしれませんが、それはむしろこのあと、いったんこの処理計画を作っていて、どのようにすれば、これが本当に全部「○」になるのかとかいうのは、そのあとのことになるのかなと思っております。 そういうことで、この数字を見せられて、しかもその計算方式がすぐには理解できないという状況ですので、なかなか難しいこともあるのですが、今日は、まずはこの資料2の裏のこういう数値目標、こんな形にしたいというところで、その数値は平成32年くらいのところを見ていただくというところで、皆様のご理解を頂ければということだと思います。事務局、それでよろしいですか。</p> |
| <p>久保委員</p> | <p>もう1点、これも要望ですけど、資料3で人口推移がベースになって、ごみの排出量になっていると思うのですが、そこでは、人口が減っても、今の状況からいけば高齢化が伴うというのは目に見えているわけです。そうしますと、在宅医療廃棄物、使用済みの紙おむつなどで、排出量が増加するというのは目に見えていますので、人口が右下がりだよというだけでなく、今言った増加の要因も考慮して、排出量の推測をお願いしたいと思います。 先ほど会長が言ったように、焼却方式とか何か決まっていな中での数字だから、困難さはあるというところに少し引っ掛かる……前回、欠席で申し訳なかったのですが、設定期間のほうで1点、ご質問ですが、よろしいですか。それはあとにしますか。</p> |
| <p>佐藤会長 久保委員</p> | <p>どうぞ。</p> <p>前回の資料1の、本計画の計画年度の点で、今、我々が検討して、これから作ろうとしているごみ処理基本計画は、平成29年度が初年度で、今ある一部事務組合のごみ処理基本計画は、平成34年度までは生きていると思うのです。そうすると、29年度～34年度までは2つの同じ名前の処理基本計画の中で、市民はごみ処理</p> |

| | |
|------------------------|--|
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>に当たるといことで、どのようにその辺を解釈すればいいのか、教えていただきたいと思います。</p> <p>久喜市のごみ処理基本計画につきましては、平成29年度を初年度とした計画となっておりまして、久喜市でこのごみ処理基本計画ができましたら、実質的には久喜宮代衛生組合のごみ処理基本計画ではなくて、このごみ処理基本計画で動いていくと、このような形で整理しております。</p> |
| <p>久保委員</p> | <p>一部事務組合の基本計画よりも、こっちのほうが上位になるということですか。</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>久喜市でできますので、久喜宮代衛生組合のごみ処理基本計画がなくなるという形でご理解いただければと思います。</p> |
| <p>佐藤会長</p> | <p>難しいところがあると思いますが、その他いかがでしょうか。他の委員の方、いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし。)</p> |
| <p>佐藤会長</p> | <p>今日は、数値目標の設定について、事務局からのご提案の考え方でやっていただくということのご了解を得たということで、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| <p>佐藤会長</p> | <p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、今日の議題はこれで終わりにしたいと思います。この後は「その他」ということで、事務局からよろしく願います。</p> <p>4. その他</p> |
| <p>事務局 (野川副主幹)</p> | <p>それでは事務局から、次回の日程でございます。次回の日程ですが、資料作成に若干時間を頂きたい関係もございまして、次回は別途ご案内、通知で差し上げる形をとりたいと思います。日程が決まりましたら文書でご案内いたしますので、ご了解いただきたいと思っております。以上です。</p> |
| <p>事務局 (小林課長)</p> | <p>それでは、長時間にわたりましてご検討ありがとうございました。先ほどありましたように次回の開催につきましては、追ってご通知をお送りさせていただきますので、よろしく願います。</p> <p>それでは、本日の会議の閉会にあたりまして、坪井副会長様からごあいさつをお願いしたいと存じます。よろしく願います。</p> |

